資料３　　三方湖周辺のふゆみずたんぼに飛来するハクチョウ類

１　調査の目的

三方五湖周辺では、従来 11 月から 12 月にかけてコハクチョウの飛来が観察されていたが、越冬例は確認されていなかった。福井県海浜自然センターでは、平成 18 年度から三方湖に近接する地区の農家に呼びかけ、ふゆみずたんぼの面積拡大に協力していただいている。また、同年度から、ハクチョウ類、ガン類など大型水鳥類の越冬環境にふゆみずたんぼが寄与する効果を検証するため個体数調査を継続している。

２　調査地と方法

三方湖南部の若狭町鳥浜地区、向笠地区（図 1）のふゆみずたんぼにおいて、平成 21 年 11 月 3 日から平成 22 年 2 月 24 日までの期間中、主に午前 8 時前後の時間帯に確認されたコハクチョウの個体数を 8～18 倍の双眼鏡を用いて計数した。

図１　調査地位置図（写真提供：若狭町）

３　結果と考察

三方湖周辺でふゆみずたんぼの面積が約 2ha に拡大した平成 18 年度から、越冬する個体群が確認されるようになった。21 年度は 11 月 3 日にコハクチョウ 2 羽が鳥浜地区で最初に確認され（図 2）、その後は断続的に観察されて、最終確認日は 22 年 2 月 24 日であった。この間に観察されたコハクチョウは最大 6 羽（11 月 23 日）で、調査期間中、これらの個体は採餌、休息などの行動をともにしていた。

21 年度の飛来数が前年度に比較して減少した原因として、まず、19 年度から 20 年度の主要な餌場と休息地になっていた鳥浜地区のふゆみずたんぼが、麦への転作のため大幅に減少したことがあげられる。また、21 年度は三方湖周辺におけるハクチョウ類の主な餌資源となる稲の二番穂の実りが極端に悪かったことも大きな要因であったと考えられる。

なお、三方湖から南方に約 11km 離れた若狭町下吉田地区のふゆみずたんぼに 2010 年 1 月上旬から 2 月下旬にかけてツクシガモが飛来した（図 3）。ツクシガモは環境省レッドデータブックでは絶滅危惧ＩＢ類に評価され、福井県での確認例も極めて少ない鳥である。同地区には約 15ha のふゆみずたんぼがあり、ツクシガモは最大 11 羽が確認された（三原学氏　私信）。

これまでの調査から、三方五湖周辺がハクチョウ類など水鳥の良好な越冬環境になるには、ふゆみずたんぼの設置に加え、餌となる二番穂が実る水田が隣接すること、道路から十分に離れ安全に休息できる場所が当該水田中に確保できることなどが必要条件であることがわかった。嶺南地方でのハクチョウ類の越冬地は、現在のところ三方湖周辺のみであることから、今後もふゆみずたんぼが継続されることが期待される。

図２　若狭町鳥浜地区で 21 年度最初に確認されたコハクチョウ
（2009 年 11 月 3 日　海浜自然センター撮影）

図 3　若狭町下吉田地区に飛来したツクシガモ（2010 年 2 月 21 日　高橋繁応氏撮影）

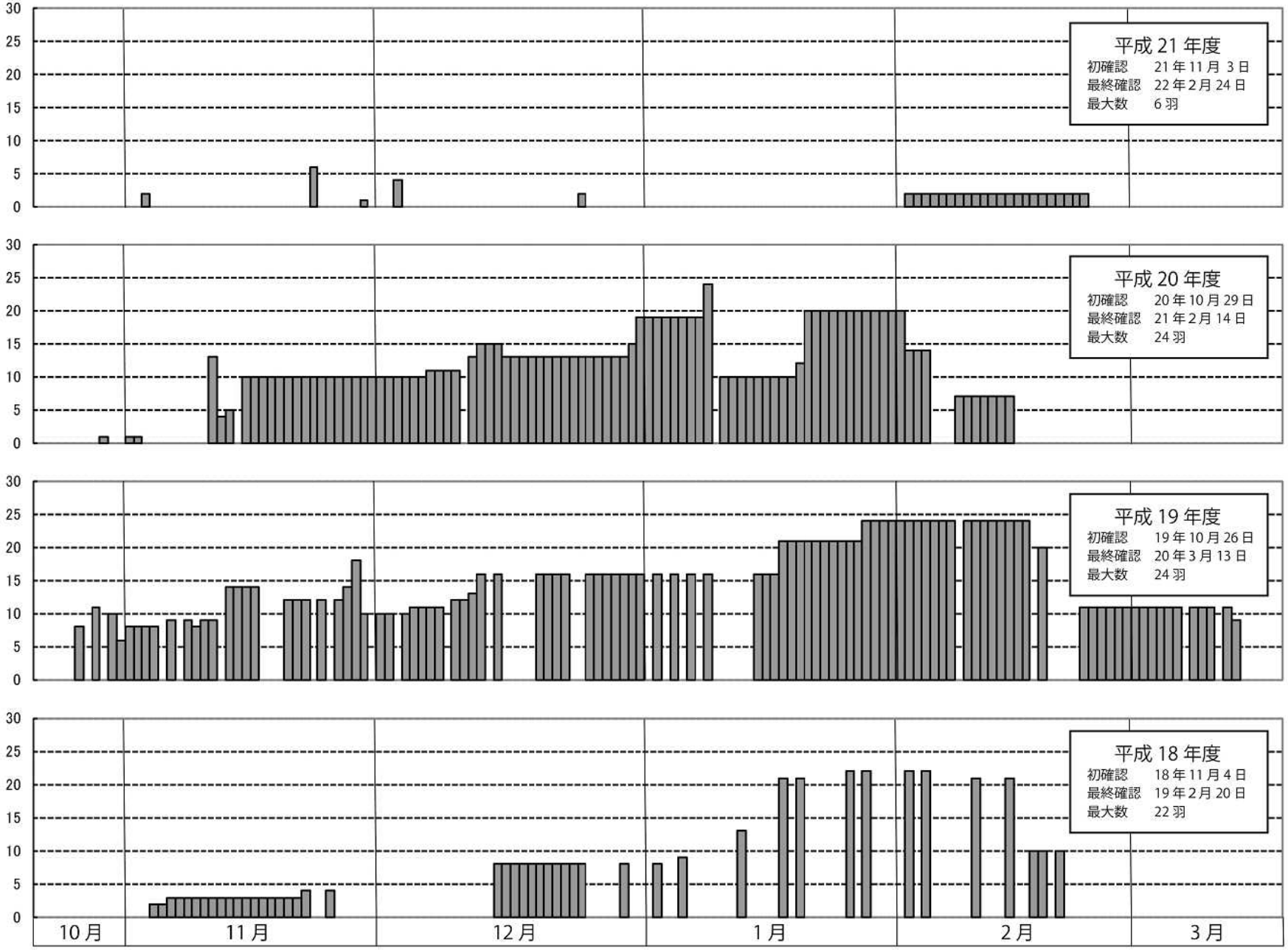

図 4　確認されたハクチョウ類の個体数（18 年度～ 21 年度）